



2024年10月20日
第60号

JR東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



信越地本「年末手当満額獲得！総決起集会」

10月18日(金)長野市北中公民館にて信越地本主催「年末手当満額獲得！総決起集会」が開催され、全体で51名の仲間が結集し、横浜地本からも7名が参加しました。

信越地本古畑委員長からは、「24春闘において2月の春闘集会に続いて今集会を開催できた。7月に信越地本がスタートし、仲間を感じてもらうこと目的に首都圏の仲間と横のつながりを強化していく。労働組合として堂々と要求を掲げてたたかっていく。今職場では、融合と連携で要員不足が発生し、年休も入らず、休日出勤が月に2、3回が当たり前になっていて退職者も増加している。手当は一時金である。先行き不透明とは言わせない」と力のこもった挨拶がされました。



中央本部高橋書記長からは、「物価高に賃金が追いついていない、期末手当も生活給になっている。年末手当は第一四半期決算、第二四半期決算を鑑みて申し入れが慣例、会社は24春闘の交渉で納得している社員が相当数いると回答した。ここを突破していく、低額相場をつくらせない」と年末手当要求実現に向けた問題提起がされました。

< 各地方からの発言 >

- ・満額回答に向けた今日の集会。夏季手当2.7ヶ月への怒り。支払い能力は充分にある。社員の幸福が伴っていない。今の会社姿勢を突破するには組織強化・拡大しかない。
- ・知らない組合員をつくらないために職場集会の定例開催にこだわっている。東労組の運動を知ってもらうこと、参加してもらうことで組合の必要性を感じてもらおうようにしている。
- ・分会のリーダーも企画業務をさせられている。企画業務をすると達成感ある。ここが会社の狙いだ。
- ・点在する組合員とどう組合に触れてもらうか。地方ではワンマンが進み特急しか乗務がなくなって手当が激減。日勤は企画業務で賃金が減り生活が苦しくなっている。年間6ヶ月を目指していく。
- ・昨年の3.7ヶ月要求から下げる要素はない。会社に幻想を持たせない議論づくりをしていく。
- ・今、安全に関わる事象が続いている。手当における成績率の変更があった。何を持って社員一人ひとりの評価をしているのか。面談時の管理者が一度も添乗に来ていない。統括センターになり社員の数が増えて、隅々まで真っ当な社員への評価ができるのか。手当も社員のモチベーションの一つ。労働者の分断をさせない。

**労働組合として労働者らしく堂々と要求を掲げ、
満額回答を実現させよう！！**